

平成 27 年 5 月 29 日

大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折の診断を受けた患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

鹿児島大学病院 整形外科・リウマチ外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた診療記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するご質問等がございましたら、下記の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折の診断と治療に関する研究
(多施設共同研究)

【研究機関】 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医療関節材料開発講座

【研究代表者】 特任准教授 石堂 康弘

【研究の目的】 大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折に対する保存的治療（骨粗鬆症の投与と杖歩行）を行い、その効果を経時的に評価して、現在の薬物治療の効果を明らかにします。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

平成 27 年 6 月 1 日から平成 29 年 6 月 31 日までの約 2 年間に、鹿児島大学病院 整形外科・リウマチ外科において、X 線や MRI にて、大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折と診断された 70 歳以上の患者さんを対象としています。

●方法

大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折は軽微な外傷をきっかけとして、あるいは何の誘因もなく股関節痛で発症しますが、初期には X 線検査ではわからない 70 歳以上に多い病気です。したがって、X 線写真で原因が不明の 70 歳以上の患者さんに MRI を実施して、初期に正確な診断を行います。そして、大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折と診断されたら、松葉杖による免荷歩行と薬による治療を行います。既に骨粗鬆症治療薬を投与されている方は、そのまま投与を続けていただき、松葉杖により歩行の負荷を軽くします。

まだ骨粗鬆症治療薬を投与されていない方は、主治医の判断により骨粗鬆症の治療を開始するとともに、松葉杖により歩行の負荷を軽くします。

治療の経過を明らかにするために研究開始から 2 年間、保険診療の範囲である次の検査を実施します。

採血検査（初診時，6，12，18，24 ヶ月後の骨代謝マーカーを調べる）

骨密度検査（初診時，6，12，18，24 ヶ月後）

画像検査（X線：初診時，3，6，12，18，24ヶ月後，MRI：初診時，3，12ヶ月後）

【個人情報の取り扱い】

使用する情報は、お名前や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の参加を希望されない方へ】

この研究への参加（解析のための画像データ提供）を希望されない場合は、研究が終了する平成31年6月30日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。その方のデータは削除いたします。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番地1号

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医療関節材料開発講座

特任准教授 石堂 康弘

電話 099-275-5381 FAX 099-265-4699